



Point

育苗の良否が生育や収量、品質を左右します
適正な管理で健苗育成に努めましょう!



秋田地区営農センター 主任 関口 直樹

温度管理

好天時には、ハウス内の温度はすぐに高温になってしまいます。出芽期の適温である30℃～32℃を超えないよう、温度の上がりすぎや急激な温度変化に注意しましょう。
※ビニールを新しくした場合は温度が急激に上昇しやすいため、特に注意が必要です。

水管理

かん水は、床土が白く乾いている、葉が巻き始めているといった床土の水分状態を確認し、朝に1回たっぷりを行うことを基本とします。夕方から夜間に過湿状態にならないように、午後からのかん水は控えましょう。曇天時、低温時も避けてください。また、地温の上昇を妨げて根張り不良や軟弱徒長を招くため、必要以上にかん水を行わないようにしましょう。

育苗期防除

本田におけるいもち病の発生は、育苗期間中に発病した苗を持ち込んでしまうことが主な要因となっています。必ず、育苗期の防除を行って発病苗の持ち込みを防ぎ、いもち病被害を未然に防ぐことが重要です。

薬剤名	希釈倍数	散布量	使用回数	使用時期
ベンレート水和剤	500倍	500ml/箱	2	播種時～播種7日後頃

葉いもち・初期害虫防除用箱剤の紹介

近年、箱剤については、様々な使用時期のものがああります。使用時期を逸すると薬害を起こす恐れがあるので、必ず確認のうえ使用してください。

薬剤名	使用量	使用回数	使用時期	対象病虫害
ファーストオリゼパディート箱粒剤	50g/箱	1	播種前または播種時(覆土前)	いもち病、ドロオイ、ゾウムシ、フタオビコヤガ、イナゴ類 他
ルーチンアドスピノ箱粒剤			播種前から移植当日	いもち病、ゾウムシ、ドロオイ、ハモグリバエ、フタオビコヤガ、ウンカ類 他
ツインターボ箱粒剤08			いもち病、ゾウムシ、ドロオイ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ 他	
箱いり娘粒剤			移植7日前から移植当日	いもち病、紋枯病、ゾウムシ、ドロオイ、フタオビコヤガ、ハモグリバエ 他